

## 三年ぶりの眼蔵会開催に向けて

加茂法話会 令和四年四月二十六日

一、『佛祖の大道、かならず無上の行持あり、道環して斷絶せず、發心・修行・菩提・涅槃、しばらくの間隙かんげきあらず、行持道環なり。

このゆゑに、みづからの強為ごういにあらず、

佗の強為にあらず、不ふ會ぞう染ぜん汚なの行持なり』

正法眼蔵「行持」の巻より

二、一ひやくせんまんぼつ發菩提心を百千萬ひやくせんまんぼつ發するなり。

正法眼蔵「發無上心」の巻より

三、人間はできる限り樂をしたい生き物である。しかし、「樂をしたいから、やりたくない」とは言いづらい。ところがコロナ禍は、「樂をしたい」という本音を「感染予防」の大義名分で覆い隠すことに成功した。

中略

コロナ禍における感染予防の不気味さは、「体を動かすこと」や「他者と関わること」の煩わしさをあぶり出し、それをできる限り削減することを。感染予防の下に推進したことである。

そのうち私たちは、生きることそのものすらも面倒くさいと思うようになるかもしれない。人間という存在そのものが変化をしようような時代を私たちは生きている。

日報1月21日の論考2022

「感染下で進む不気味な変化」 人類学者 磯野眞穂

四、考えさせられる論考である。「樂をしたい」「煩わしさをから逃れたい」こともある。しかし、仲間が協力し合うことで得られる面白さや楽しみや喜びがあるのだから、多くの人と関われる日常が早く戻ってほしいと願っている。

日報の読者投書欄の窓に「人と関われる日常がいい」加藤泰造

五、叢林とは

叢は、くさむらをさす。草一本ではつぶれても立ち上がることができないが、叢になつていると立ち直ることができる。

林は、一本では曲がってしまうが、大勢だとまっすぐに伸びる一人だとできない修行を皆がいるとできる。お互いに支え合っている。それが叢林。